

低温科学研究所 情報セキュリティ対策手引の作成

小野 数也¹、千貝 健^{1,2}、福土 博樹^{1,2}

1. 技術部先端技術支援室
2. 所内ネットワーク運用委員会

はじめに

現在、ネットワークは我々の業務に必要不可欠である。インターネットを介して情報の入手、メールでのやりとり、共有ファイルサーバを利用した文章ファイルのバックアップなど様々である。安全、かつ円滑に使用するためには必要最低限のルールを守る必要がある。しかしながらパソコンが相手になると、その最低限のルールすら守ることのできない人も多い。

ウイルスに感染し、意図せず不特定多数に攻撃をしかけている人は、残念ながら感染していることに気づかず使用していることがほとんどである*¹。その結果攻撃を繰り返し、「他の人に感染 → また感染」と言ったような悪循環に陥る。また P2P ファイル交換ソフトの利用は、本学において禁止されている。もし著作権法に違反するファイルをやり取りした場合、大学の受ける損失は計り知れない。

我々がトラブルに気がつく、もしくは対応に迫られた時には、手の施しようの無い（手遅れ）状態になっている。これらの事態を未然に防ぐためには、我々の監視を強化するだけでは不十分で、個々のユーザの意識を向上することが最も重要である。

依頼内容

2008 年 4 月 17 日所内で開催された拡大ネットワーク委員会にて、セキュリティ担当者（各研究グループの代表者）より情報セキュリティ対策手引の作成を依頼された。また、本研究所ネットワーク運用委員会としても、所内構成員が最低限のルールを守り、安全にネットワークを利用するために手引の作成は必要であると判断した。手引の作成にあたり、先端技術支援室も参加・協力した。また所内外国人構成員のため、英語版も作成することにした。

所内全体の情報セキュリティに対する意識の向上（底上げ）を図るもので、最低限のルールや守って欲しいものを掲載する。市販のマニュアルと異なり、所内でネットワークを使用することに限定しているため、余計な情報が含まれない。現場にフィットしたわかりやすい内容であり、初心者でも混乱無く読むことができる。作成する側としても、ページ数も少なく、まとめやすい。以下に、本手引に載せた“HINES に接続する前にチェックすること”を示す。

1. サポートの終了している OS を搭載した PC を使用しない。
2. OS のセキュリティアップデートを欠かさず行う。
3. ウィルス対策ソフトを導入し、パターンファイルの更新を欠かさず行う。
4. 業務に必要な以外のソフトをインストールしない。
5. 私物の PC を業務のために使用しない。
6. 一人で使用する PC でもパスワードを設定する。
7. 身元の信頼できないホームページやメールを閲覧しない。
8. 不要なサービスを提供しない。

*¹ 不正なバケットを大量に出していると、本学情報基盤センター（HINES）は該当マシンの通信を遮断し、ネットワークの使用を禁止する。しかしながら、その該当マシンの通信は本研究所のネットワーク入口（ゲートウェイ）まで止められるだけなので、内部での感染拡大は止められない。

この項目は本学情報基盤センターのウェブページや、2008年4月17日の拡大ネットワーク委員会での議論などを参考にし、本研究所ネットワーク運用委員会でまとめたものである。

その後、これら作成した基本項目それぞれについて、簡単な説明を加えた。1, 2, 3, 8の項目については、OSにより事情や設定方法などが異なるため、それぞれのOSについて注意点等も加えた（ただし windows, macintosh, linux に限定した記述となっている）。

2008年5月13日：ver.0.1.1が完成。項目によっては全く書かれていない箇所もあった。その後、5月15日（ver.0.1.2）、5月26日（ver.0.2.1）、6月2日（ver.0.4.2）と繰り返し修正した。

2008年6月4日：日本語版が完成（ver.0.5.2）。ネットワーク運用委員長より、各グループ情報セキュリティ担当者へ配布し、意見を頂いた。

2008年7月1日：情報セキュリティ担当者より頂いた意見から、最終版（ver.0.7.0）を作成し所内専用ページに掲載した。このことを所内構成員全員にメールで通知した。

2008年8月18日：英語版が完成し、所内専用ページ英語版（ver.0.7.0a）からリンクした。なお、英語への翻訳は外部委託をした（しかし日本語を直訳した場合にわかりにくくなる文章やテクニカルターム等の使用方法に若干の誤りがあったため、ネットワーク運用委員長と技術部で修正した）。

おわりに

我々が作成した、“低温科学研究所 情報セキュリティ対策手引”（図1）は完璧ではなく（例え完璧だとしても、セキュリティを保証するものではない）改良の余地は多い。そのため、所内の皆様からこの手引に関しての意見を多く頂きたい。そして頂いた意見を基により良いものにしていき、所内ネットワークを安全かつ快適に利用するための指南書として広く活用されたく思う。

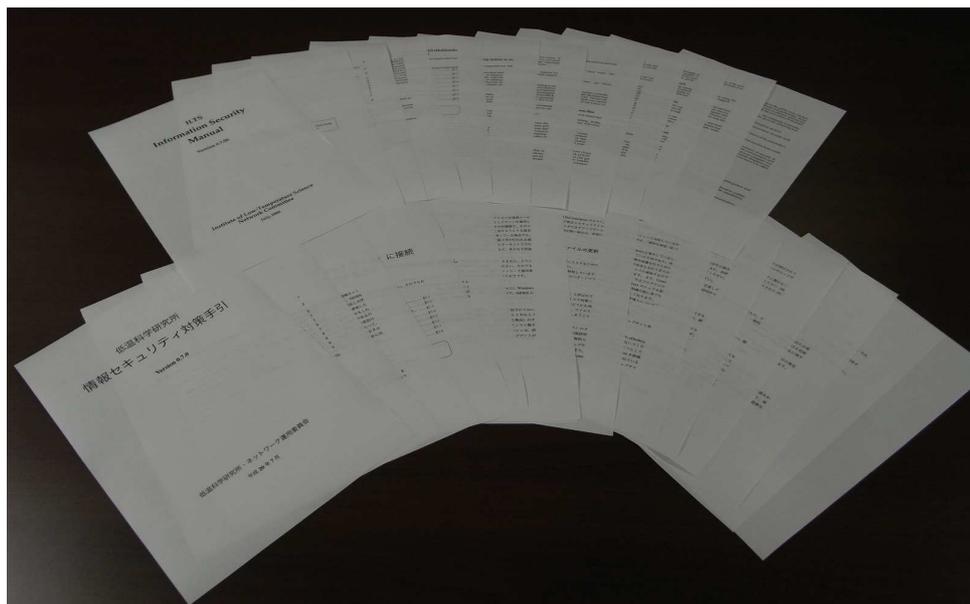


図1 手引を印刷したもの（日本語版と英語版）。